

第 15 回 寄附 講義

7 月 2 4 日

講 師：一般財団法人四極会会長
国立大学法人大分大学理事
(法務・コンプライアンス担当)
石川 公一

テーマ：後輩たちへのメッセージ

第 15 回目は、四極会会長の石川公一氏（大学 13 回、昭和 40 年卒業）が登壇して令和元年度の寄附講義を締めくくられた。

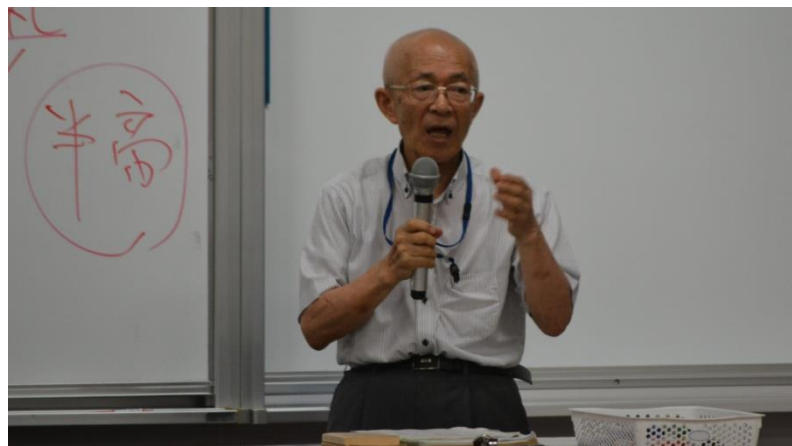
石川会長は大分県職員、副知事、大分大学理事等を歴任されたご自分の経験を振り返りながら、前例にとらわれるな、リーガル・マインドを涵養せよ、人生の目標を見つけると熱く語りかけた。

以下、講義のレジュメから抜粋した。

はじめに

四極会の概要

設立以来の
経緯、名前の
由来、卒業
者数、会員
数、支部の
状況、「女性
部会・桃優
会」、「青
雲会」



100 周年に向けての取組み

記念事業実行委員会の設立に至る経緯、事業計画、2022 年 6 月 25 日の記念式典

1 自治体職員 39 年間の“軌跡”

□なぜ地方公務員になったのか

□ 大分県、別府市、大分県教育委員会で「なに」をしてきたのか

・ 大分県勤務 30 年間

20 年間は法規担当として職員が関わる様々な事件・事故の処理、訴訟、条例・規則の制定等に従事。

他の職員がやりたがらないこと、先例のないことに積極的に挑戦。

環境企画課長、地方課長、過疎・地域振興局長を歴任

・ 別府市勤務 2 年間

第三セクターの経営破綻回避

・ 再びの大分県勤務 7 年間

大分県教育委員会教育長として教育行政を適正化

大分県副知事として行財政改革の実施、市町村合併の推進など

2 APU 立命館アジア太平洋大学、大分大学の 10 年間

・ 大学教授への転身

APU 特別招聘教授、客員教授

・ 大学役員等への就任

大分大学監事、顧問、理事

3 「仕事・職業」について

□ 「仕事・職業」とは「なに」か、改めて考えるきっかけとなった最近の動き

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故、九電「やらせメール」事件、船場吉兆「使い回し」事件、大分県教育委員会教職員採用選考「事前通知」事件

官（公）民を問わない、政治、行政運営、企業経営の質の“劣化”の進行 基礎・基本・前提の“崩壊”

□ いまや、民間私企業の活動のみならず、国家行政活動、地方行政活動においても要求される「コンプライアンス

ス」の確立

法令順守だけでよかった時代が終焉し、組織内規範・ルール、組織倫理・道徳に基づく「社会規範の順守」も要求される時代。

国家公務員倫理法、大分県職員倫理規定

- （「体験論的・実践論的」）「仕事・職業」観
 - 一つの職務を通して、組織・仕事全体を見る目を！
 - 「改革」なき組織に明日はない！
 - 「未知」の問題へのあくなき挑戦！
 - リーガル・マインド、合理的な「ものの考え方」の涵養

おわりに～後輩たちへのメッセージ

- 39年間の地方公務員としての生活から学んだこと
 - 「仕事の管理」…先例踏襲主義からの決別など
 - 「組織・職員の管理」…思考停止症候群、指示待ち症候群など
 - 「危機管理」…危機には終わりがある
 - 「地方行政の基本」…法治主義の貫徹、説明責任の履行など
 - ・著書：「実践 政策法務」、「図解 地方自治体職員必携」
「図解 自治体職員のためのトラブル解決事例集」
「自治体職員と説明責任」、「新 図解 自治体職員のためのトラブル解決事例集」

□ 人生の目的、目標

- 人生の目的とは「なに」かを常に自問自答し人生の目標を持ち続けること
- ・ 人生の目的は生きること
- ・ 人生の目標とはなにかを自分でみつける

